

巻頭言

今年度も、折に触れて卒業生が来訪してくれました。嬉しいことです。研究室の現状として、規模は小さいですが、他大学から大学院に入学する学生の割合も高く、今年度は外国籍学生の人数も過去最多です。皆が良い研究活動・研究体験ができることを願います。研究室では今年度、「ピンチをチャンスに変える」などの勉強会を何度か行いました。卒業後も、職業人として様々な困難に直面することもあるでしょう。そのときは、これらを思い出し、人生を切り拓いていってください。在学生・卒業生全員の活躍を祈ります。

国際学会には、仙台の ICCC および鳥取の APCIL に参加し、私自身が金属錯体系イオン液体に関する発表を行いました。今年度は液体の研究に加え、プラスチック結晶の研究も進展しました。イオン液体含有配位高分子の実現も大きな収穫でした。こうした配位高分子の開発をテーマにしたことは何度かありましたが、思ったような物質はなかなかできないものです。ところが院生の木股君が、イオン液体合成の過程で、偶然にも目的物質を単離しました。いわば *prepared mind* 的な状況であったため、この研究はうまく展開しました。研究室では目的志向型の研究が主体なので、こういう発見は珍しく、私にとっても大変面白い経験でした。

私の状況ですが、X 線作業主任者免許が必要となり、先般、試験を受けました。本来は昨年度に受けるべきだったところ、受験日程がほとんど全て教務委員長の用務と重なっていたため、今年度に受験しました。院試を受けて以来、数十年ぶりの試験勉強でした。試験勉強は、論文作成に比べればはるかに楽で、それなりに有意義でした。今年度は、こうした試験勉強や入試業務などにも時間が割かれてましたが、昨年と比べれば会議が大幅に減ったのは幸いでした。

今年も、卒業生全員に幸あれと祈ります。

(2019 年 3 月 持田)